

令和4年度 小林市立東方中学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

学校経営ビジョン	○ 学校教育目標を達成するために、第二次宮崎県教育基本計画及び小林市の教育基本方針を受け、本校の歴史と伝統、そして、保護者、地域、子どもの実態及びニーズを踏まえて、「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める小林教育の具現化を図る。 ○ 小中一貫教育を充実させ、学力向上を目指した授業改善、豊かな心の育成を目指した教育活動の推進、学校・家庭・地域がそれぞれの教育的機能を発揮し、故郷への貢献を意識し、自立・感謝・貢献の学びの循環を確立することを目指す。 「様々な出来事に主体的に対応し、協働しながら未来を切り開く生徒の育成」 ～東方イノベーション～ICTの多角的な活用を土台に～
----------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	数値目標 赤が実績	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価		関係者評価	学校関係者評価のコメント
				項目	総合		
知育	確かな学力の習得 ICTを効果的に活用した、授業力の向上の推進（授業公開・4つのチェックポイントを意識した授業づくり） 各種テストの分析と学力向上対策に基づく徹底した指導の実践（個別指導の充実） キャリア教育の充実と協働しながらの主体的学習の推進（職場・福祉体験の充実と英検等資格取得、読書活動の推進）	○一人1回研究授業 全員行った ○学びたい度～ 90% ③地域や社会への関心 90% 以上 ○テスト平均～ 教科・学年によりばらつき 経年変化昨年よりアップ ○英検・英検等の一人1資格取得 ○英検 英検9名 英検12名 合格 ○読書活動の推進～貸出冊数 31.3冊 ※1月末現在 ○学びたい度～ 93% ①将来の夢 90% 以上	○諸調査等の結果から本年度も「知識・技能の確実な定着を基盤として思考力・判断力・表現力」の向上について全職員で取り組んだ。教科の特性に応じてタブレットPCの効果的な活用を図りながら学力向上を図るための手立てを実施した。次年度はさらに個別最適化学習や特性に応じた活用等を検討していく。また、朝自習時間でのICT活用をさらにすすめて向上心をもって学習できる生徒を育成していく。 ○全国学力学習状況調査（4月実施3年生対象）ではほぼ県平均と同じ結果であった。3年学力テストの結果については地区平均をやや下回る結果であった。みやぎ学習状況調査の結果については層別分析を行い授業改善に生かしていく。全国・県平均を目指して相互参照やタブレットPCの効果的な活用及び生徒の学習意欲を喚起できる授業づくりに努め、生徒のさらなる学力向上につなげていく。 ○キャリア教育の充実に関しては職場体験学習や福祉体験学習で地域の事業所や人材を活用することができた。望ましい職業観を形成していくために「読み聞かせ」の時間に保護者や地域の方々に講話をしていただいた。生徒に大変好評なため次年度も継続していきたい。 ○漢字検定試験は46名受検し、5級5名、3級7名合格。英語検定試験は14名受検し5級2名、4級5名、3級2名合格。	3.3		3.7	○ 学力の習得、さらなる向上につなげられたら良いと思う。 ○ タブレットは活用はよいと思います。学力向上につながると思います。
				3.3	3.4		
				3.6			
徳育	豊かな心の育成 道徳の時間の計画的実施と人権教育の推進（いじめ・不登校の解消） 心を鍛える立腰の推進と豊かな心を育む交流活動の充実（立腰、支援学校との交流） 生徒会活動の軸としたボランティア活動と社会貢献活動の推進（ABC運動、花いっぱい運動、輪太鼓披露）	○いじめ認知解消率 100% 、不登校ゼロ 0名 ○学びたい度～ 97% ②学校に行くのが楽しい 90% 以上 ○学校評価アンケート 100% 「立腰」 90% 以上 ○学びたい度～ 100% ④人の役に立ちたい 90% 以上	○道徳科の授業において命の尊さ、いじめや人権に関する学習を計画的に行った。今後はソーシャルスキルやコミュニケーション向上のために授業内容の工夫を図る。また、同じ集団で長年過ごしており互いをよく理解しているが、お互いを高めあったり、助言しあったりすることができないため、集団の力を高めしていく必要がある。 ○スマートフォンの使用時間、SNSのトラブル等を未然に防ぐために外部講師を活用しての情報モラ教室を行った。次年度は年度当初に実施し、家庭との連携をさらに深めていきたい。 ○生徒の人権尊重の観点から、校則の見直しを図り、生徒の要望、時代のそぐわないもの、人権の観点から配慮に欠けるもの等について改定を行った。 ○本校は不登校生徒は少ない。支援校在籍の生徒が登校が難しい日々が続いたが、小学校時代より「改善の傾向が見られる。支援学校の担任を中心に職員全員で支援に取り組んだ成果が出つつある。遅刻傾向や遅の初めが苦手な生徒についても支援を継続し改善が見られている。 ○生徒会を中心としたA（あいさつ）B（ボランティア）C（コミュニケーション）活動を感染症等に配慮しながら継続することができた。花いっぱい運動については計画どおり実施できた。また、輪太鼓については合同運動会やこぼし秋祭りで披露することができた。次年度は地域の行事等で披露し地域貢献を図りたい。	3.8		3.7	○ 心の育成ではコミュニケーション向上のため授業を工夫されたり、ABC運動の継続、お互いを高めたり助言しあう大事な学びと思う。熊野神社のボランティア清掃ありがたいです。 ○ タブレットやスマートフォン使用時のトラブルが心配されます。先日から話題の軽い動画のアップ、チェーン店での迷惑行為、宮崎県のホームでの悪ふざけ等、学校、家庭で指導を強化したほうがよいと思います。
				3.1	3.4		
				3.4			
体育	健康な体づくり 体力向上プランに基いた、授業、部活動を通しての体力向上の推進（体力向上） 日常を通じての健康・安全に対するの自己管理、危機管理意識の高揚（治療率及び各種避難訓練、健康、安全学習） 「共生」「協働」を意識した体育的行事等の充実と推進（合同大運動会、駅伝ロードレース大会、部活動）	○体力テスト～ 全年4種目以上、県平均以上、1年2年2年3年4年D E段階の割合10%以下 ○病欠～R3 277名 R4 81名 ○虫歯（6名）等の治療率～71%以上 16.6% （5名未治療） ○各種避難訓練、健康、安全学習～ 通年2回以上実施 8回 ○生徒アンケート満足度 90% 以上 合同運動会・駅伝競走大会 100%	○体力テストを実施することができ、落ち込みが見られる種目を分析し、体育の授業では毎回体づくり運動を取り入れ改善を図っている。授業ではタブレットPCを効果的に使えばスポーツに慣れ親しみながら、体力向上を図ることができた。全年において持久力に課題があるため、年間を通して高まるよう手立てを講じた。 ○避難訓練をこすもす支援学校中部と合同で2回実施することができた。また、2回とも外部講師の講話を真剣に聞き、もしものために備える学習ができた。保健体育の授業では救急時の対応について学習をした。 ○保健面において、学校薬剤師を講師に招いての薬物乱用防止教室、前原病院のスポーツドクターを招いての体づくりに関する講話を実施し興味・関心を高めた。 ○合同大運動会については昨年同様規模を縮小し実施した。感染症対策のため練習の制約等はあったが、一定の成果は得られた。駅伝大会はコースを変更し校内のコースで行った。生徒が懸命に走る姿と保護者や地域の方の応援があり盛り上がった。	3.6		3.6	○ 体力は部活動にもよるかと思えます。 ○ 健康な体づくりは日常を通じていろいろとされていると思う。 ○ 薬物乱用防止教室はよいと思います。最近では身近で聞くことが増えたかと思えます。
				3.1	3.6		
				3.4			
食育	食育の推進 日常の給食指導を通しての食や健康への自己管理意識の育成（食育・保健だより及び朝食・給食の意識化） 家庭と連携した弁当の日と感謝する心の醸成（弁当の日、給食感謝週間）	○食育・保健だより 毎月発行 ○朝食摂取率 100% → 2～3名摂取していない 給食残食ゼロ ほとんどない ○給食センターとの連携～ 講話を実施 ○年2回の弁当の日と給食感謝週間 を実施 ○「食の贈り物」夏休み を実施した ○「学校評価アンケート」 94% 「食育指導を実施」 90%	○ウイズコロナの時代と捉え、教師・生徒が意識を高くもち「新しい生活様式」や「持ち込まない、持ち帰らない」対策を徹底し学校での活動が断然されないよう努力した。 ○食に関心をもち取り組む企画を予定通り実施することができたが、自己評価、生徒及び保護者の意識調査結果を見ると改善が必要である。外部講師の活用した講演会も実施できた。 ○給食を毎日提供していただいている栄養士から、食に関する講話を聞き、感謝の心や食事のマナーについて理解を深めることができた。朝食摂取率や残食についてはほぼ0の状況が続いているが、偏食など気になる生徒もいるので働きかけを継続したい。	3.5		3.5	○ 米・食べ物の大きさをもう少し学んでほしい。 ○ 生徒たちが高い意識をもってウイズコロナの時代を乗り切ってもらいたい。 ○ 感染症対策も緩和され、郷土料理教室などができるとよいかと思えます。
				3.3	3.4		
その他	信頼される学校づくり 各種通信及び学校ホームページ等による地域への積極的な発信 参観日・学級懇談の充実 学校運営協議会の充実・・・年間3回実施 地域の伝統・文化の継承・・・東方輪太鼓踊りの伝承	○学校評価アンケート 97% ○学校の様子 95% 以上 ○参観日等の保護者の出席率 85% 以上 4月16日 70% 6月3日 67% 11月8日 67% 2月21日 ○学校関係者評価～平均 3.5 以上 ○学校評価アンケート 100% 「地域の伝統・文化を継承する取組の実践」 95%	○学校の様子は90%の保護者が伝わっていると肯定的であったが、ホームページや様々な便りをさらに工夫して、学校の様子を伝え、保護者の考えや地域の期待に応えられるように努力したい。また、災害時には学校安心・安全メールを活用を図りたい。 ○参観日をはじめ学校行事においては、ウイズコロナを意識しながらできる限り実施した。しかし、平日の参観は多忙な保護者も多いことから参観者を増やすことができなかったため、工夫が必要である。 ○学校運営協議会は、5月、10月、2月の3回実施することができた。地域に開かれた学校づくりについてや、学校が地域からどのようなことに期待されているかなど建設的な協議会となり、学校経営の改善に生かすことができた。「おじやったもんせカフェ」については学校として地域に広め活用を図りたい。 ○県指定無形文化財である「東方輪太鼓踊り」は「こぼし秋祭り」で披露し、3年ぶりに着付けを行い演舞することができた。今後とも保存会と協力しながら伝承していく一方で、道具の管理・修繕、着付けの方法等については学校職員も入れ替わっており、指導等は難しいため保存会にその役割をお願いしたい。	3.9		3.5	○ 輪太鼓踊りの練習には生徒たちに感謝しています。 ○ 校長先生・教頭先生を始め、保存会の方たちに感謝しつつ、東方まちづくり協議会も何か考えないといけない時期にきていると思います。 ○ 3年ぶりの輪太鼓踊りは生徒にとってよい経験になったと思います。
				3.4			
				3.4	3.6		
				3.4			
				3.8			
次年度の方向性についての校長所見	本年度もコロナ禍において、様々な学校活動が制限される中ではあったが、学校経営ビジョンを具現化するための重点目標（数値目標）が、ほとんどの項目において、ある程度満足できる成果を出すことができた。一方、生徒個々でみると学力の向上、基本的な生活習慣や学習習慣など、改善していかなければならない点もまだまだ多い。そこで、「現状維持は後退！」のスローガンを教師はもとより生徒も今まで以上に意識し、自分自身を向上させるための集団づくりを目指したい。具体的には以下の3点を重点施策として取り組んでいく。 ① 教師・生徒共にキャリアアップを目指すという意識のもと、ICTを活用しながら、生徒の主体性・自主性を育み、学力向上を図る。 ② このめまぐるしく変化していく時代に柔軟に対応し生き抜くために、新たな体験的な学習や活動を推進し、コミュニケーション力を高め、広い視野や考え方を育成する。 ③ 引き続き「地域への貢献・感謝」「郷土への愛」の意識を一層高めるために、本校の伝統であるABC運動や輪太鼓踊り、花いっぱい運動を推進する。						